

佳作

夏休みのどきどき

千葉県 白井市立桜台小学校二年 林 勇心

ぼくは、夏休みにしずおかのおじいちゃんとおばあちゃんにあいにいきました。しずおかのおうちには、ぼくのいとこがいっしょにくらしています。いとこは、小学校四年生の女の子です。ある日、そのいとことぼくと、ぼくのいもうとと、しずおかのおうちのちかくにある風穴という天ねんきねんぶつはどうくつへあそびに行きました。風穴は、一万年前にふじ山のふん火でながれてきたようがんがかたまってきたどうくつです。ぼくは、小さなときからおじいちゃんにさんぽで、つれていってもらったばしょです。いとことぼくは、小学生なのでこんかいは自分たちだけでいってみました。風穴へいってみると、いつもはどうくつの中にあかりがついているのに、今日はなぜかついていなくて、どうくつの中がまっくらでした。ほかのかんこうきやくの人

たちもまっくらでこまっていました。みんながこまっていたので、いとことぼくは、風穴のうけつけの人に

「すみません電気をつけてください。」

と言いました。うけつけの人は

「あーごめんね。」

と言ってつけてくれました。どうくつの中は電気がついたので足元が見えるようになりました。かんこうきやくの人のおばあさんが、ぼくたちに

「ありがとうね。」

と声をかけてくれました。ぼくは、うれしくなっておばあさんに

「明日もきますか？」

と聞いたらおばあさんが

「わたしは、こないけどぼくたちは、またくるの？」

と聞かれたので、

「いえがちかいのできます。」

と、こたえてさようならをしました。風穴からかえるときに、ぼくが

「今日できたおばあさんの仲よしさんのことは、三人のひみつにしよう。」

とていあんしました。いとこいもうとは、

「そうしよう。そうしよう。」

とよろこんでくれました。ふだん、ぼくはしらない人とは話ませんが、であったおばあさんは心やさしかったので、しぜんと話すことができました。風穴のできごとは、ちよっぴり大人になった気がします。もちろんぼくは、つぎの日もいとこいもうとと風穴へあそびにいきました。